

<令和4年6月>

かきのみ園だより

渋谷区山谷かきのみ園



待つことの大切さ

施設長・園長 森山 未来

園庭のブランコの周辺のドクダミが、白い花（葉の一部だそうです）を付け始めました。皆さんご存じのとおり、ドクダミは強烈な匂いが特徴ですが、花は可憐でかわいらしいため、子供たちも思わずおままごとに使ってみたくなるようです。でも案の定、摘んでみて、手についた強烈な匂いに「うーんっ」と、困った表情を浮かべます。これも、実際に自分で触れてみて嗅いでみなければ分からない貴重な体験です。私もこの時期、園庭のドクダミを抜くことに勤めます。というのも、ドクダミをそのまま放っておくと、イネ科の雑草が生えなくなって、秋にバッタを呼び込めなくなってしまうからです。ある日、年長ぞう組の子供たちが、一緒にドクダミ抜きに加わってくれました。「うへえ！変な匂い！」と言いながら、大きな袋がいっぱいになるまで集めました。次の日も、遊びの時間に自分たちで誘い合ってたくさんのドクダミを摘んでくれました。袋いっぱいのできたので、「こんなにたくさんのドクダミ、もったいないね…」とつぶやくと、「ママがお茶になるって言ってた。体にいいって言ってたよ」「おばあちゃんが、ドクダミを袋に入れてお風呂に入れるといいって言ってた！」と、Aちゃんが自分の知っているドクダミ活用法を紹介してくれました。他にも、お茶になることを知っていた子もいたので、早速、数本ずつ束ねて軒下に干し、ドクダミのお茶を作ってみることにしました。乾燥するまで2週間ほどかかります。特製のドクダミ茶が出来上がったら、ぜひ、子供たちと味見したいと思います。さてさて、お味はいかに？！罰ゲーム的にならないことを祈ります！

園庭のほのぼのとした子供たちと自然との触れ合いとは別次元で、確実に私たちの日常生活にも、技術革新の波が押し寄せていることを感じる昨今です。「DX（デジタルトランスフォーメーション）＝デジタル技術を浸透させることで人々の生活をより良いものへと変革すること」という単語も身近になりました。とは言うものの、私のようにデジタルに疎い人間にとっては、せいぜい地元のスーパーのレジが無人化されたことぐらいが、生活の中で感じる技術革新の具体です。

先日、無人化レジにまつわる話で、「ゆっくりレジ 登場」というニュースを目にしました。セルフレジは待機時間の短縮も利点の一つとなっているので、支払いに手間取ってしまう人には不寛容です。特に、ご高齢の方にとっては緊張を強いるものであり、あるスーパーでは、対面で時間をかけて小銭を取り出すことができる「ゆっくりレジレーン」を設けたところ、大好評であったというのです。一人一人の困り感や心もちに寄り添うことができたから、「ゆっくり」の発想が生まれたのでしょう。人の気持ちを繊細にみ取ることができるのは、人間に授かった能力によるものです。どんなにAIが発達したとしても、この部分は克服できないとも言われています。

私自身が無人化されたレジを利用して、まず感じたのは、「子供たちのお店屋さんごっこはどんな風が変わってしまうかな？」ということでした。ごっこ遊びは、生活の中で自分が実際に体験したことを再現する遊びですから、今後、店員のいないお店が登場してセルフレジでお会計したり、店もなくなってスマホでポチっとするようごっこ遊びが登場したりするようになるのかもしれませんが。やり取りがなくなってしまうことを残念に思うのと同時に、便利さによって奪われていく「人と関わる直接体験」の重要性を思い、幼児期にはあえて不便さに向き合ったり、工夫したりする過程を経験させたい、とも思いました。

この社会は、子供の成長をゆっくりと待つことができているでしょうか。子供たちには、急がず、慌てず、ゆっくりと、心を動かしながら成長するための時間が必要です。ドクダミ茶が出来上がるまで待つ、バッタの原っぱが出来上がるまで待つ。自然の営みからも待つということを教えられ、自然と戯れて遊ぶ子供たちの姿からも、成長を待つことの大切さを日々教えられています。